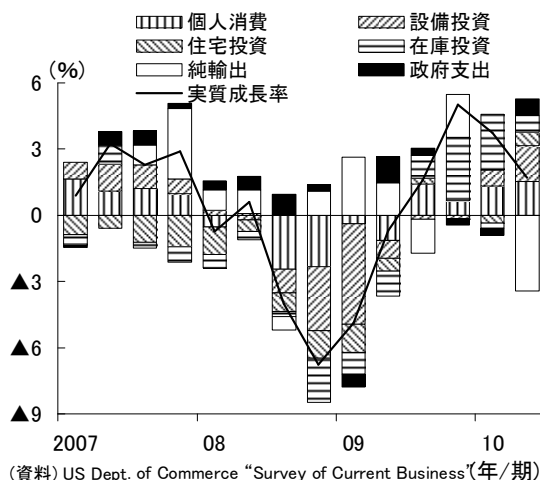


外需マイナスの米国経済

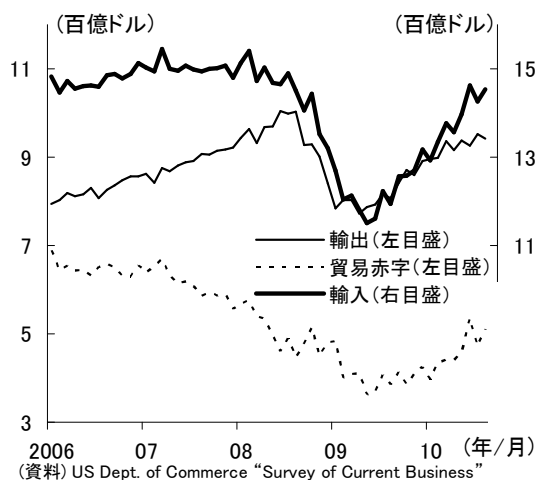
～ 止まる輸出と増える輸入 ～

- (1) 米国経済は2007年半ばから09年半ばまで外需が主要な牽引役（図表1）。しかし、10年に入り、一転して外需の成長寄与度が大幅マイナスへ。マイナス幅は、1～3月期の前期比年率▲0.3%から4～6月期▲3.5%に拡大。
- (2) 実質ベースでみると、リーマン・ショックまでは輸出が増加し、リーマン・ショック後は輸入が減って、純輸出がプラス成長に寄与（図表2）。しかし、10年に入ると、輸出が月を追って次第に鈍化する一方、ハイペースの輸入の増勢が続く、純輸出の成長寄与はマイナスに転換。本来、輸入の増加は内需の強さを示唆。しかし、今春以降、先行き不透明感が増大。このところの輸入増をどのようにみれば良いか。
- (3) そこで財別にみると、直近の8月まで増加が続いている品目は資本財と消費財（図表3）。原油など素原材料と自動車は今春以降一進一退。次いで財別に輸入価格をみると、自動車や素原材料はこのところ値上がり（図表4）。一方、消費財は低位安定、資本財は一段と低下。実質輸入と価格動向を重ねてみると、価格が低下した消費財と資本財で輸入シフトが進行。背景には、所得雇用環境の悪化や先行き懸念の増大。今後を展望すると、雇用環境の低迷が長引くとの見方が米国内でも拡がるなか、輸入シフトが一段と進行する公算大。
- (4) 輸入の増加は成長にマイナス。仮に輸入の増加が止まり、9月の実質輸出入金額が7～8月平均と同値としても、7～9月期の外需は前期比年率▲1.1%。内需は8千億ドルの景気対策効果が本年半以降マイナスに作用し始めるなか、米国経済の先行きは一段と不透明に。

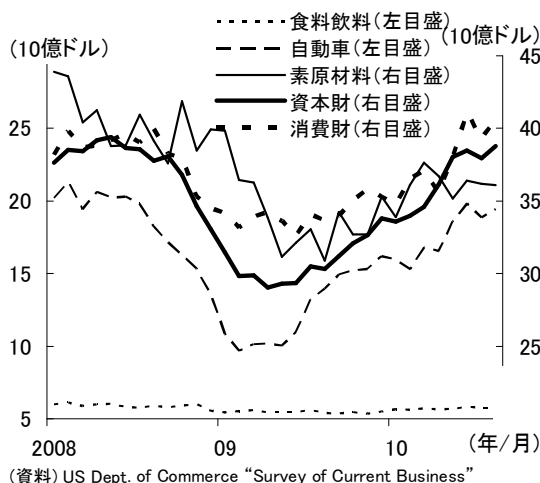
（図表1）アメリカ実質経済成長率（前期比年率）



（図表2）アメリカの輸出入金額と貿易収支（実質）



（図表3）アメリカ品目別実質輸入



（図表4）アメリカ品目別輸入価格

